

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1171300260
法人名	有限会社MMK
事業所名	コスモス吹上
所在地	〒369-0115 埼玉県鴻巣市吹上本町1-11-8 (電話) 048-548-5585

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月21日

【情報提供票より】(平成20年5月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 2人, 非常勤 9人, 常勤換算 4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 0 円
または1日当たり1,300円			

(4) 利用者の概要(5月2日現在)

利用者人数	8 名	男性 3 名	女性 5 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 77.3 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山崎医院、佐藤歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、高崎線吹上駅より徒歩8分ほどの国道沿いに位置し、周囲は住宅地とコンビニストア、病院などがある一般的な地域で、普通の民家のような建物である。ホームの理念として掲げられている「その人がその人らしく生活する為の自立を支援」するケアが日々の中で実践されている。よく話を聞く、教えてもらう、一緒に行くなど、その人が持っている力や経験などがケアの中に反映されており、利用者同士の会話や笑顔からも伺うことが出来る。地域との交流も活発であり、特に民生委員をはじめとしたボランティアやその家族の方たちとの交流もあってということで、月1回の同行支援による買い物は利用者の楽しみとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の指摘事項となっている、内部研修や外部研修の参加や取り組みについては、諸事情もあり改善されているとはいいがたいが、改善に向けた努力はされている。職員からの意見や考えを傾聴しながら、ケアのあり方をチームケアとして取り組み、実践に活かそうと努力している。介護計画に基づいたケアの実践ということでのカンファレンスは、会議の場以外でも日常的に話し合われている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、今後の願望を含めた管理者自身の自己評価になっている。管理者の交代ということで、前任者から引き継いだもの、見直しが必要と思われるものなど、総合的に判断した評価になっている。管理者自身、他の職員からの意見を聞きながら、ケアの質の向上に向けて、日々の実践に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議での討議内容については、ホーム全体でのケアの取り組みの様子や、行事などの案内などが挙げられているが、慢性的な状況にもなっており、今後の定期的な開催ということについては検討課題としている。地域との交流や市担当課との連携はされており、外部評価での指摘事項などについては、会議で話し合うなど改善に向けた努力がされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関前に、苦情や意見を記入してもらう用紙が置かれ、誰でも記入できるようにはなっているが、現在のところ苦情や意見がなく、ホームの運営に反映するということはないが、家族は面会の際、職員から心や身体の状況や様子などの報告を受けている。ケアのサービス内容については、契約の際、食事や排泄、入浴、健康管理などについての対応方法などが説明がされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常生活の中では、月1回の買い物支援や、散歩などの外出時に地域の人たちと挨拶が交わされている。また、ボランティアによる訪問や支援といった交流が活発に行われている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者が地域において、家庭的な雰囲気の中で「その人が、その人らしく自立した生活をしていく為」の支援を理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者一人ひとりがその人らしく自立した生活が出来るように、日々の中で支援をしている。管理者は日々のケアの中で、他の職員からの意見や考えを傾聴しながら、自立支援という共有の理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事の夏祭りでは、ベランダでバーベキューパーティーなどをし、近所の人たちも参加している。敬老会行事への招待や、ハンドベルのボランティアの方たちによるクリスマス会の発表会には、子ども達の家族も参加するなど、地域との交流が活発に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での改善事項については、職員たちのケアの見直しを話し合う機会となっている。今回の自己評価は、今後の願望を含めた管理者自身により総合的に判断した評価になっている。管理者自身、他の職員からの意見を聞きながら、ケアの質の向上に向けて、日々の実践に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との交流もあり民生委員との連携も随時あるが、話し合うテーマなどの選択に苦慮しており、2ヶ月に1回という定期的な会議開催については検討課題となっている。		運営推進会議を継続していく中で、ホームでの生活状況や外部評価、自己評価の報告をしていくことで、参加された家族や委員から今後のテーマや課題が示されることもあるため、定期的、発展的な開催を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課、福祉課とは随時、連携しながらケアの向上に向けた取り組みがされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回、利用料の納入のための訪問があり、その際、家族には利用者の日常の様子や健康状態を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に苦情や意見を記入してもらおう用紙が置かれているが、特に苦情や意見といったものはなく、家族は面会の時などに職員と意見交換している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職に伴うケアへの影響は、ケアの改善という方向で他の職員とともにチームケアとして実践されている。職員の退職や異動の際は利用者への配慮に努め、聞かれたときに報告し説明するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は職員に周知されているが、参加申し込み時のタイミングが合わず参加の機会を逃すことが多くあり、職員個人で自主参加している研修が多い。		研修についての年間計画を作成するなど工夫をすることで学びの機会を確保し、研修内容を報告することで全職員が共有できることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの主催する会議などへは参加しているが、同業者同士の横の連絡や連携については現段階での取り組みは実施されていない。		地域の中の同業者とのつながりによる、相互の発展的な交流が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から入居までの流れの中で、アセスメントから得た情報を基に、入居時の不安を緩和するために、マンツーマンで対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという視点から、利用者一人ひとりの長い間に築かれた経験や知識を、日々の生活の中で教えてもらうことが多く、学び支えあう関係づくりに留意している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームの理念である、その人らしく生活できる支援の実践に向けて、利用者の思いや意向の把握に努め、手伝いたいことや何かしたいことなどの希望については一人ひとり対応するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人の心と身体の状態に合わせた介護計画が作成されている。実態として日々のケアの中で十分に活かすことが出来ない状況もあるが、日々、職員からの意見や考えを傾聴し、チームケアとしての実践に取り組んでいる。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成者の交代ということもあり十分な引継ぎがない中で介護計画になっているため、見直しについては再検討が課題となっている。		月1回の会議の中で、一人ひとりの状況の変化に応じた見直しを検討していくことについての話し合いが求められ、日々のケアの中で職員よりの意見を傾聴している実績が介護計画の見直しの中で反映されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣への通院時の送迎の支援など、職員が柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診による検診が実施されている。医療相談以外にも、利用者の方の入浴拒否やレクリエーションへの拒否があった場合など、主治医より助言してもらうことで解決されることもある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームのケアのあり方を細かく説明している。終末期に向けたケアについては、職員の中での話し合いもされているが、医療行為に対する不安要素もあり全員での方針は共有はされていない。重度医療の必要な利用者の入院までの支援の実績がある。		重度化や終末期に向けた話し合いは職員間で話し合われているため、今後も話し合いを重ね、本人や家族の意向を確認しながら方針の共有を図っていくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人台帳や氏名などが記載された書類関係については事務所に保管されており、関係者以外の閲覧はできないようになっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は職員が常に3人体制になっており、利用者のその時々要望や状態に合わせたケアが実践されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は利用者同士が3人～4人で1つのテーブルを囲み食事をしている。職員は食事をしている様子を見守り、介助をしている。また、食事の準備や片付け等、手伝える利用者と一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに昼食後に実施している。家庭用のユニット式の浴室のため、入浴日以外にも、入浴を希望される方がいた時には対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に沿った行事等が計画されており、日々の生活以外の楽しみになっている。手編みの好きな方、掃除の好きな方、身体を動かすことが習慣になっている方、プランターでのミニ野菜づくりなど、一人ひとりの力や希望に合わせた支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の食材の買い物などに一緒に行ったり、随時希望があった場合の散歩などの外出支援がされている。また、毎月1回、地域民生委員の協力により、地域の大型スーパーでの買い物が支援され、一緒に買い物を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしていない。ホームの前は国道になっており車の往来があるため、夜勤者の交代時には安全面に配慮し施錠している。また、無断外出予防のためのセンサー機能が設置されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報訓練、消火訓練、避難訓練、誘導訓練は消防署の指導の下に実施されているが、夜勤帯の誘導などの訓練と、近所との協力体制が十分ではない。		昼夜問わず災害時を想定した訓練の取り組みとともに、近隣の方々へ協力を依頼することで連携を深め、協力体制が築かれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食以外に10時と3時にはおやつや水分が提供されている。また、日々の業務日誌には栄養量や水分補給についての記録が記されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1ユニットということで全体的にはこじんまりとした印象を受けるが、居室以外の共有場所となっている居間は道路に面し、引き戸を開けるとベランダになっていて、外の空気や匂いなどに生活感が感じられる。居室前の廊下にはソファが置かれていて、利用者同士が会話できる空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	6畳よりはやや広いスペースになっている。備え付けのベッドや収納棚のほかに、それぞれが入居前に使用されていた馴染みの物が飾られたり置かれていることで、その人らしい居室となっている。		